

【実践報告】

2023 年度・沖縄こどもの国でのワークショップ実践報告

盛口 満

はじめに

昨年に引き続き、沖縄こどもの国で授業実践をさせていただく機会を得た。ワークショップを行ったのは2年生の基礎ゼミ（12名）に所属している学生たちである。4月にこどもの国のスタッフの方々がゼミに参加し、施設や趣旨の説明など、ワークショップを考えるにあたっての頭だしをしてくださった。その後、ゼミでは3グループにわかれ、子ども向けのワークを考える活動を実施した。それぞれ、「うんこ」「毛皮」「舌」というテーマが考え出されたのだが、そのうち最も授業化しやすい「うんこ」をテーマに、7月のオープンキャンパスでの模擬授業にあわせ、具体化を試みた。このオープンキャンパスでの模擬授業の流れをさらに改訂し、11月5日の日曜日、こどもの国・ワンダーミュージアムにおいて、午前と午後の二回、ワークショップを実施した。以下、そのワークの内容（午前中に実施したもの）の記録である。

実践記録

（Tは授業者の発言、Sは子どもたちの発言。参加した子どもは、未就学児も多かった）

T:おはようございます。今日、授業をするT先生です。よろしくお願いします。ところで、みんなは、朝、何を食べた？

S:寿司

T:寿司？ すごいねー。ほかには何を食べたかな？ ご飯を食べて、おなかに入ると、それが溶けて栄養になります。これを消化といいます。さて、ご飯を食べたら、何をします？

S:歯磨き

S:トイレ

T:そうですね。今日は、うんこの授業をします。

（ホワイトボードに、漫画のキャラクター、J、N、Sの3人の絵を貼る。さらに、ステーキ、寿司、イモの写真も貼る）

このキャラクター誰だか知っているね。この3人、それぞれ、どんな食べ物が好きだろう？

S:Jは肉でしょ。

T:Nは何が好きかな？

S:寿司

S:Sはおイモさん。

T:じゃあ、Jと同じように肉を食べるのが好きな国といたらどこだろう？

S : アイスランド？

S : アメリカ

T : そうだね。アメリカはハンバーガーとかお肉をよく食べるよね。では、アメリカ人って、一日にどのくらいウンコををすると思う？ わからないよね。数字だとちょっとわからないかもしれないけど、平均、180 g です。さて、お寿司が好きな国といえば？

S : 日本

T : じゃあ、日本人は、アメリカ人に比べてうんこの量は多いと思う？ 少ないと思う？
(挙手の結果、少ないと思う子どものほうが多い)

T : 日本人のうんこの量の平均は 200 g です。では、イモを食べるのが好きな国ってどこだろう？ これは難しいから先生が答えをいいます。それはニューギニアです。では、ニューギニア人のうんこの量って、多いと思う？ 少ないと思う？ 実際のうんこの量をみてみましょう。

(粘土で作った模擬うんこを差し出す。日本人の量である 200 g のものと、ニューギニア人の量である 1000 g)

ニューギニア人のうんこの量、こんなにあります。1000 g です。では、なんで、こんなにうんこの量が違うのかな？

S : 人の量

S : 大きさ？

S : おイモを食べてるから。

T : そうですね。食べ物の違いですね。食べ物を消化して栄養を取り込んだら、残るのはうんこですね。

(肉とイモで、食べ物に占める栄養となる分と未消化…うんことなる分を模擬的に示したグラフを貼り出す)

お肉とイモでは、栄養になる分の割合が違うよね。おイモのほうは、栄養になる分が少ない。だから、うんこが多くなるんだね。同じ人間でも、食べ物によってうんこの量が違うということは、動物でみてみたら、うんこにきっと違いがあるはずだよ。どーん。これ、なんのうんこだらう？

S : ゾウ！

T : そうです。触ってみたい人はいるかな？

S : はい

(ゾウの糞をもって、子ども達の席をまわる)

T : とところで、ゾウって、一日にこのうんこをいくつぐらい出すだらう？ ここで問題。一日にするうんこの数は、10 個、20 個、50 個のどれかな？ 手を挙げてみてね。

正解は、50 個です。とっても多い量ですね。みんなの家にゾウがいたら、うんこでうまっちゃうね。さて、ゾウって、何を食べているかな？

S : ワラ、草、リンゴ

T：そういうのを食べてますね。草食です。では、草の栄養を見てみましょう。

(先と同じく、模擬的に栄養分と未消化分をあらわしたグラフを提示)

草って、イモよりもさらに栄養になる分が少ないよね。だから草を食べたら、たくさんうんこをすることになるんだよ。ゾウさんが、少ない栄養しかない草から、栄養を取り込む工夫をみてみましょう。はい、ドーン。これなんだ？

S：石？

T：持ってみましょう。重いよね。なんだと思う？

(マンモスの臼歯の化石を子ども達に持たせてまわる)

T：これ、ゾウさんの歯なんですよ。ここで、また質問です。ゾウさんは、2本の長い牙があるけれど、口の中に、歯は何本あるでしょう？ 4本、6本、8本のどれかな？ 手をあげてみてね。

ゾウさんは、この大きな歯が4本しかありません。ゾウさんの口の中の写真をみてください。ほら、4本の歯が写っているよね。

S：きたない

T：汚いねー。歯をみてみてね。歯の表面がざらざらしてるよね。これで、がりがりーって、草をすりつぶして、飲み込んでいるよね。

では、この動物の頭の骨をみてください。これ、誰の頭の骨かな？

S：恐竜！

T：この動物、肉と草だったら、どっちを食べるだろう？

S：肉！

T：そう。じゃあ、肉を食べる動物といたら？

S：チーター

S：ライオン！ 今日、見てきた！

T：正解は、トラです。ゾウさんと比べてトラは歯がとがっているよね。トラさんは、お肉を食べます。お肉は尖った歯でちぎって、そのまま飲み込んでも消化がいいんです。ステーキも消化がいいから、よくかまなくても大丈夫。でも草は歯でゴリゴリ噛まないと、消化が大変なんだよ。次の動物の頭の骨をみせるね。これは誰だろう？

S：チンパンジー

S：ハイエナ

T：この動物、何を食べてそう？

S：肉

T：この動物、パンダ、キリン、ライオンのどれだろう？ ヒントです。この動物のウンコを見せます。何を食べていそうかな？

S：草

T：そう、正解はパンダです。うんこを見ると、草のかけらが入っているね。パンダさんの歯は、ゾウさんと違って鋭いね。どっちかというとならさんに似ているね。でも草食で

す。もともとパンダさんはクマの仲間です。そのパンダさんが食べているのは竹ですね。竹を食べるように進化しました。パンダの奥歯は人間に似て、すりつぶすために適した形をしています。こんなふうに、動物によって、食べ物もうんこもいろいろです。ほかの動物のうんこも見てみましょう。このうんこはだれのうんこかわかるかな？

S：ちっさい

T：そうだね。ちっちゃいよね。これはキリンのうんこです。キリンも草食です。でも、ゾウさんやパンダさんのうんこと違って、草のかけらとか見えないよね。こんなふうと同じ草食でもうんこはいろいろです。では、今日は、もうひとつ、特別な動物のうんこを紹介します。

(授業補助の学生が、ジングルベルの音楽を流す。それにあわせて、他の学生が実物大に描いたトナカイの絵を広げ授業者の横に出てきて示す)

12月と言えば、クリスマス…トナカイです。これ、トナカイの実物大の絵だよ。トナカイのうんこって、どんなかな。トナカイは何を食べてる？

S：草

T：トナカイは草食ですね。トナカイのうんこは、キリンとパンダのどっちに似てそうかな？

S：キリン

T：じゃあ、トナカイとキリン、どっちのうんこのほうが大きいかな？ トナカイのうんこを持ってきたよ。

S：ちっちゃーい

T：コーヒー豆みたいだね。トナカイ、草食だけど、うんこがとても小さいです。これはなぜかな。ゾウさん、パンダさんは、草を食べるために歯に工夫があったよね。トナカイは体の中に秘密があります。

(授業補助の学生が、授業者の脇にたち、人間の内臓を描いた絵を体の前に提示する。授業者が、口から、胃、腸と食べ物のたどる道筋を示し、特に内臓には腸と呼ばれる部分があることに触れる)

トナカイは、腸に工夫があるんです。どんな工夫かな。トナカイの腸は長いかな、短いかな。トナカイの腸は長いんです。ここに、トナカイの腸の長さの紐を用意しました。みんなで腸の長さを見てみましょう。ひっぱって、ひっぱって。

(授業者がトナカイの腸の長さに切って巻いたスズランテープを持ち、端を順番に子ども達に手渡しさせ、伸ばし切った後、テープを持った手を上にあげさせて、その長さを皆で確認する)

トナカイの腸、40メートルもあるんですよ。超、長いですね。今日はどんなことがわかったかな。動物のうんこって、いろんなことがわかってすごいね。それと、みんなも野菜を食べるときはよくかもうね。では、最後にお土産を作りましょう。

(うんこストラップを作るワークに続く。テーブルに、アミノクロウサギ、トナカイ、

キリン、オオカンガルー、イモムシの一種、シカ、ヘラジカのうんこを樹脂で固めたものを置き、好きなうんこを一つ、選んでもらう。うんこストラップ係が、ピンバイスでうんこに穴をあけ、そこにネジを入れ、ストラップの金具を取り付ける)

ワーク後の振り返り

2 回のワーク終了後、参加した学生一人一人から感想を聞き、最後にこどもの国のスタッフの宮城さんから講評をいただいた。

(学生の感想)

- ・準備期間が短かったけど、協力して授業ができてよかった。子ども達の反応がよかった。
- ・子どもが反応してくれた。わざわざしたところもあったので、そこを改善できたらと思う。
- ・授業をするのは、めっちゃ緊張した。でも、本番でしか味わえない体験があった。
- ・準備は短かったけど、クオリティの高いものが出来たと思う。子どもの反応も予想通りのものだった。
- ・最初は子どもも緊張してたけど、やがて、答えをいろいろ言ってくれるようになった。ただ、おとなしい子への対応の仕方は考える必要があるかな。
- ・後から参加したけど、この場所だけ雰囲気がちがってすぐにわかった。雰囲気を造れていた。
- ・授業の途中、外側を歩いていて立ち止まってみていた子がいて、ひきこめているのがよかった。体験している子どもの眼がかがやいていた。
- ・めっちゃよかったと思う。

(宮城さんの講評)

今回、授業者の話かたのトーン、スピード、表情、とてもよかったです。授業者が緊張すると、子どもも緊張してしまうけど、みんなは、話すときにニコッと笑っていた。それがとてもよかった。サポートの皆もよく動いていました。感想の中にもあったけど、体験すること大事です。話を聞いているだけだと、大人もそうだと思うけど、話の中身がぬけちゃう。でも体験がはさまることで、記憶に残るし、授業のメリハリも出る。二回目の授業で、子ども達に「前にでてきてごらん」と呼びかけたのは、いい考えだったと思う。あと、効果音を使ったのも最高でした。トナカイの腸のところで、「みんなで協力しよう」という声掛けをしていたのも大事。みんな、まだ2年生だから、これからいろんなことを勉強していく段階だと思う。今日のワークでも、かまってちゃんみたいな子がいたよね。こういう子は必ずいます。今日はサポートの皆で手分けして対応していたけど、これが一人でワークをするとしたらどうするか。そういうのがこれからの課題です。あと、言い間違いをしていたところがあったよね。そういうこと、必ずあります。だから、大事なことを間違えないようにカンペを用意するとか。あと、途中で言い間違えたと思ったら、そこで「しまった、間違えたー」と言ったほうがいい。そのほうが子ども達にも印象的。それと、

子どもに何かを見せた時、「汚い」「怖い」といったりします。それをそのまま受け取って、「そうだね、汚いね」といってしまうと、子どもに、「ああ、これは汚いんだ」と刷り込むことになっちゃう。だから「そうかー、汚いって思うんだね」とか「私はこれ怖そうと見えただけ、みんなはどう思う？」とかいうふうにやりとりをしたほうがいいかな。それでも、今日みたいに、その場にどんな子が集まるかわからない、一期一会の場で、ここまで授業をできたのは感心です。

さいごに

ワークの参加者の保護者の一人から声をかけていただいた。22年前、私が沖縄国際大で非常勤講師をしていたときに授業を受けていた学生だったという。その時に受けた授業で、印象に残っている授業内容についても語ってくれた。この方は現在、県内の高校の社会科教員をしているということだった。ワークの途中で、事情があり抜けますということであったのだが、その方から「授業をしているのは2年生ですよ。2年生でここまでの内容の授業をつくられていることに感心をしました」という感想をいただいた。今回のワークを作るにあたり、皆で考えを出し合いながら本番につなげていったが、何より最終段階で2人の授業者が授業案作りに試行錯誤し、自分のものとしてそれを作り上げていった過程が貴重であったと思う。緊張を伴う、「本番」の場に立ちあう経験は、学生たちの力を確実に向上させるということを思った。このような場を与えてくださった、こどもの国の関係者の皆様に感謝をいたします。